

## 折に触れ 四字熟語

### NO.115 『一暴十寒』 いちばく じっかん

< 意味 > 少しだけ努力して、あとは怠けることが多いたとえ。気が変わりやすく、ちょっと努力するだけで怠けることが多いたとえ。また、あるところで努力して、あるところでそれを打ち破るたとえ。一日目にこれを日に曝<sup>さら</sup>して暖めたかと思うと、次の十日これを陰で冷やす意から。「十寒一暴（じっかんいちばく）」ともいう。

< 出典 > 「孟子」<告子>上  
「・・・」

孟子曰、無或乎王之不智也。雖有天下易生之物也、一日暴之、十日寒之、未有能生者也。吾見亦罕矣、吾退而寒之者至矣。吾如有萌焉何哉。  
・・・」

読み下し： 孟子曰く、「王の不智を或<sup>あや</sup>しむなかれ。天下生じ易き物ありといえども、一日これを暴<sup>あたた</sup>め、十日これを寒<sup>ひや</sup>さば、いまだよく生ずる者あらざるなり。われ見<sup>まみ</sup>ゆることまた罕<sup>まれ</sup>なり。われ退<sup>しりぞ</sup>きてこれを寒する者至る。われ崩<sup>きざ</sup>すことあるをいかんせんや。」

通 釈： 『齊の宣王が愚かになるのも不思議はない。どんなに芽を出しやすい種でも、一日温めて十日冷やせば、とうてい芽を出すことはできないからだ。わたしが王に会うのは時たまのことだ。わたしが退出したとたん、冷やす者が大勢現れるのでは、せっかく温めて芽ばえさせようとしても、どうにもならない。』

語 釈： 「暴」は「曝」と同じで、日に曝して暖める意。ここでは「ばく」と読みます。「或」には疑うという意味もあります。

一 言： 孟子シリーズ その4

出典の「萌」が読み下しでは「崩」できざす、と読んでいます。「萌<sup>きざ</sup>す」が正しいのではないかと思います、参照文献そのままを記しました。

出典では取り巻きが良くないと言っていますが、この頃の私は何かを学習しようとしても2日と続かず自壊しています。

参考文献： 徳間書店・中国の思想「孟子」 岩波書店「四字熟語辞典」